

令和6年度 徳島北高等学校 第2回学校運営協議会 協議概要

1 日 時

令和7年3月14日（金） 午前10時30分から正午まで

2 場 所

徳島北高等学校 大会議室

3 (1) 代表生徒による発表

①「総合的な探究の時間」(Kitako-Take Off Project) 課題研究発表

テーマ：「Sun Sun マーケットとつばプロを通して」

発表者：普通科2年生 3名

② 国際英語科で2年間過ごして

・国際理解探究活動：通訳の活動を通じた地域ボランティア
～「北島町防災訓練」に参加して

- ・タイ国際生徒会議参加
- ・「全国高校生フォーラム」にて発表
- ・中国高校生との交流（訪日教育旅行団来校）
- ・ASEAN 中高教員との交流
- ・今後の進路について

発表者：国際英語科2年生9名

③質疑

(2) 協 議

①令和6年度教育活動の報告について、向井校長が説明した。

②令和6年度学校評価総括表について、北浦企画課長が説明した。

③意見交換

◇委員からの意見

- ・生徒の発表から、地元北島町の防災訓練にボランティアとして参加したり、徳島市のイベントに参加し実際に出店したり、幅広く活動できていることが素晴らしい。若い力や若い知恵をどんどん発揮して、地域活性化に繋げてもらいたい。
- ・生徒は一人一人がそれぞれの強みを上手く発揮し探究活動を行っている。
- ・北高の教員の皆さんは指導力の高い先生方の集団で北高に入れば学力が伸びる、また、地域に密着した活動がたくさんなされており、周辺の中学生の多くが入学したいと願っている。
- ・学校評価のアンケートを実施する場合に、スクールポリシーとの関わりを考慮しながら、

学校の求めるレベルを明確に示しておくほうがよい。例えば、「学校行事や生徒会行事には、生徒の意見が取り入れられている」と答えた生徒の割合が多いが、その程度については個々の生徒によって変わってくるため、学校の求める基準を明確に示すべきである。

- それぞれの生徒が三年間通って、北高で良かったと実感できる学校づくりを期待している。それこそが学校の存在意義である。
- 一般的に不登校の生徒が増える傾向にあるなか、他人に助けてほしいと言える生徒を育ててほしい。そのためには、そのような環境づくりが必要である。生徒には、困ったときには躊躇せず、他人を頼ってもらいたい。
- 人権教育で同和問題を取り扱う時間は少なくなっているが、現状を考えると同和問題の解決に取り組む必要性が高まるのではないか。

